



第4回
Unified Flyingdisc Session
<実施報告書>

2020年2月13日



一般社団法人日本ドッジビー協会

実施要項

日時：2020年2月8日(土曜日) 14:30~17:00

会場：文化シヤッター株式会社 本社2F BXホール
東京都文京区西方1-17-3

主催：一般社団法人日本ドッチビー協会 <DBJA>

協賛：文化シヤッター株式会社 / ワタミ株式会社

参加料：ひとりあたり¥500- (傷害保険加入費・消費税 等一式を含む)

参加賞：ワタミグループ全店で使用できる500円お食事券
DBJAオリジナル・メッシュ収納袋

参加者一覧

7組	32名	当日の構成	障がい種	現在の所属先
1	3人	親子	知的	高等部(特支)
2	2人	親子	知的	卒業生(特支)
3	2人	親子	知的	卒業生(特支)
4	14人	利用者	知的	放課後等デイサービス
5	7人	利用者	精神	作業所
6	2人	教員仲間	障がいなし	教員(特支)
7	2人	兄弟	知的	高等部(特支)



当日スケジュール

- 14:00～ 入場・受付開始
- 14:30～ イベント開始
協賛社 文化シャッター株式会社様 挨拶
今日のプログラムの全体説明 ～ おこなうことの流れ
- 14:35～ ドッチビーを使用した体操
ディスクの投げ方・捕り方の説明およびデモンストレーション
ドッチビー・チャレンジサーキット①のルール説明
- 14:45～ ドッチビー・チャレンジサーキット①×2回
1) ドッチビー・ディスゲッター
2) ドッチビー・キャッチ
5) ドッチビー・フープ
- 15:15～ 休憩
- 15:25～ ドッチビー・チャレンジサーキット②のルール説明
- 15:35～ ドッチビー・チャレンジサーキット②
4) ドッチビー・パス
☆ 算数ドッチビー（新種目）
- 16:10～ 休憩
- 16:15～ ディスクドッチゲーム
1) ホワイトチーム vs ブルーチーム
2) ホワイトチーム vs パープルチーム
3) パープルチーム vs ブルーチーム
- 16:50～ 主催者挨拶（今後の主催イベントについて）
写真撮影
- 17:00 イベント終了

【プログラムの内容と効果】

●ドッチビー・チャレンジサーキットとは

最もポピュラーなドッチビーを使った種目はディスクドッチですが、障がいのある方々に挑戦していただくにあたり、ディスクドッチに必要な「投げる」「捕る」「避ける」といった動作をあえてバラバラにした1つずつのコーナーとして体験します。

複数のコーナーをサーキット形式で体験することによって少しずつ、楽しみながら、ディスクドッチというゲームをおこなう時に必要な動きを自然と練習したことになることを想定したプログラムです。

各コーナーの構成内容と効果は以下の通りです。

1) ドッチビー・ディスゲッター

縦横3枚ずつのパネルに向かって強く正確にドッチビーを投げて、パネルを抜き落とすストラックアウトのような種目です。目標物があることによってディスクを投げる際の正確性を獲得することができます。また、人ではなくパネルに向けて投げるため、初めての人でも思いっきりよく投げるすることができます。

2) ドッチビー・キャッチ

スタッフが投げるドッチビーをキャッチする種目です。「速い」「普通」さらに「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができ、ドッチビーは柔らかいため、恐怖心を取り除く効果も期待できます。

3) ドッチビー・ドッジ (今回は実施していません)

スタッフが投げるドッチビーを避ける種目です。2)と同様に「速い」「普通」「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができます。また、スタッフが足元や顔の周辺などに投げ分けることによって上手な逃げ方を覚えることが期待できます。

4) ドッチビー・パス

立っているスタッフに向けてドッチビーをパスする種目です。「近い」「中間」「遠い」という3段階の距離を設定し、狙った目標(スタッフ)に正確に投げる正確性、距離に応じてスローの強さを調整する能力が求められます。

5) ドッチビー・フープ

キャッチ&スロー(ディスク版キャッチボール)を行う2人の間にフラフープを固定した道具を置き、そのフープを通して相手にディスクを投げる種目です。狙った場所に正確に投げる正確性が求められます。また、フープを通して飛んでくるディスクをキャッチするため、キャッチ能力も問われます。

【講 評】



この度、第4回Unified Flyingdisc Session(以下UFS)を文化シャッター株式会社 本社2FのBXホールにて開催することができました。



快適な会場をご提供・ご協賛賜りました文化シャッター株式会社様、参加賞を提供いただきましたワタミ株式会社様には改めまして御礼申し上げます。
誠にありがとうございました。

今回の第4回UFSは、特別支援学校の在校生・OBOGの方々、東京都文京区で活動されている放課後等デイサービスに所属するの方々、埼玉県川口市の就労継続B型事業所に所属するの方々、特別支援学校教員といった様々な方々にご参加いただきました。



予定時間通りの進行で開会は会場を提供いただいた文化シャッターを代表してCSR統括部の土方さんより一言、ご挨拶をいただきました。
また今回のゲストとして参加



者と同じチームでプログラムを体験いただく、日本で唯一の実業団アルティメットチーム「文化シャッターBuzz Bullets」に所属する現役日本代表選手3名をご紹介します。

次にスタッフより本日の予定を説明の後、ディスクを使った準備体操でプログラムを開始しました。



今回のプログラム内容・時間配分としましては参加者の障がい特性や開催時間を考慮して、さらに会場の広さも勘案してドッチビー・チャレンジサーキット4種目と新種目である算数ドッチビー、ディスクドッチゲームを実施いたしました。



今回の参加者はリピーターが多かったため、投げることに焦点を当てた内容、ディスクドッチゲームの時間を多く確保できる内容といたしました。



新種目である算数ドッチビーは、ディスクゲッターを使用し、パネルの番号を足したり、引いたりすることで「7」になるようにドッチビーを投げ当てる種目です。

参加者の反応も素晴らしく、チーム対抗戦とすることによってチーム内の雰囲気がとても良いものになっていました。





プログラム中はBuzz Bulletsの選手がとても楽しそうにプログラムを盛り上げていただき、参加者のテンションも最高潮に達していました。

選手自身がUFSを楽しむとともに、参加者の状況やプログラムの進行状況に応じて臨機応変に対応して下さったことに、心から感謝いたします。

実施後の反省会でのいくつかの発言を記載させていただきたいと思います。

- 参加者が想像以上に上手にドッチビーを投げていてビックリした
- 参加者の一生懸命な姿を見て、自身もさらにやる気になり、プログラムに入り込むことができた
- ドッチビー1枚でとても楽しむことができ、新たな繋がりができたことが嬉しかった
- 他団体の参加者が楽しそうに話している姿を見て、新たなつながりができて良いイベントだと思った
- 捕ることに焦点を当てたプログラムを行っても面白いと思う
- 保護者や介助者の方がとても楽しんでいる姿を見て、障がいの有無だけでなく、年齢の差も関係なくできるスポーツだと改めて感じた



終了時の挨拶では、今後の主催イベントとして、2021年2月11日に駒沢オリンピック公園にてUFS関東大会を開催することが決定したこと、開催に向け、より多くの方々にご参加いただけるよう努力することを発表させていただきました。

今後も障がいの有無にかかわらず、全ての方々が一緒にドッチビーを行うことで、ドッチビーを通じたスポーツの楽しさを享受できるような場を提供していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

